

第6学年1組 学級活動（2）指導案

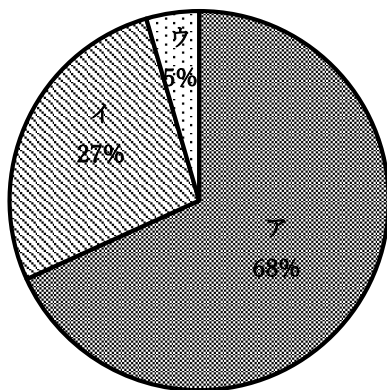
令和5年1月23日（月）第5校時
在籍児童数 22名
場所 第6学年1組教室
指導者 教諭 齋藤 紗也加

1 題材「SNS とのつきあい方」（イ よりよい人間関係の形成）

2 題材について

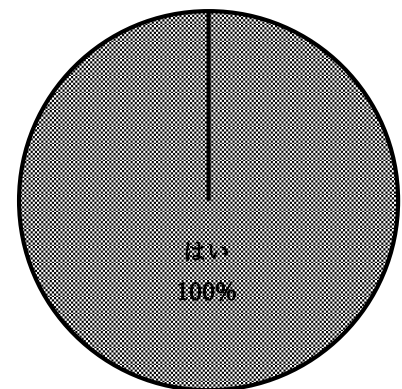
（1）児童の実態

家でインターネットを使用している



ア 毎日
イ 1週間に何度か
ウ 1ヶ月に数回

ルールを守って使用している



本学級の児童で「家庭でインターネットを使用している」と答えた児童は100%であった。その中で「毎日使用している」は68.2%、「1週間に何度か使用している」は27.3%、「1ヶ月に数回使用している」は4.5%であった。更にどんなときに使用しているかを尋ねたところ、ゲーム、Youtube、友達と連絡を取る、分からないことを調べるが多かった。それだけインターネットが児童の中で身近であり、よく使用されている媒体であることがわかる。

本学級の児童を見ていると学校でChromebookを使う際には「栄小GIGA宣言」を守り、使うことができている。また、家庭での使用も決められたルールを守り、使うことが出来ているようだ。これから中学校へ進級してからもルールを守りながらインターネットを使えるようになる必要がある。また、メリットとデメリットの両方を考え、よりよく情報を受信したり発信したりできるような力が身につくとよい。

（2）題材設定の理由

小学校学習指導要領特別活動編では、学級活動の目標を「学級や学校での生活をよりよくするための課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成し、役割を分担して協力して実践したり、学級での話し合いを生かして自己の課題の解決及び将来の生き方を描くために意思決定して実践したりすることに、自主的、実践的に取り組むことを通して、資質・能力を育成することを目指す」としている。

児童が情報を得る手段として多く活用されているツールがSNSである。実際児童との会話でも

LINE、YouTube、Instagram、Twitter、TikTok といった言葉がよく聞かれる。現在、児童は情報を受信する側であり発信することはほとんどないと考える。しかし、興味・関心の高さから、近い将来児童が情報を発信する側になることが予想される。その時、発信して良い情報と発信してはいけない情報を取捨選択できるようになるために、クラスで話し合い、自分のこととして考えていけるようにしていく。

3 研究主題との関わり

(1) 研究主題・目指す児童像

①研究主題

令和2・3・4年度 新座市教育委員会委嘱研究

確かな学力を育てる — ICT を活用した主体的・対話的で深い学びの研究 —

②目指す児童像

ICT を使い、主体的・対話的で深い学びができる子

③研究の仮説

ICT を活用すれば、児童の主体性が引き出されたり、話し合いや意見整理に深まりが生まれたりして、確かな学力が育まれるだろう。

(2) デジタル・シティズンシップ教育部の研究

①部会の目標

責任を持って情報技術を用い、人権と尊厳を尊重した社会参加を実践する能力を育てる。

②本題材における具体的な手立て

○児童に身近な SNS を取り上げることで、より主体的に考えることができるようにする。

○ロイロノートを活用し、意見を交流することで、対話を通して学びを深められるようにする。

4 第5学年及び第6学年の評価規準

よりよい生活を 築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての 思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係を よりよくしようとする態度
日常生活への自己の適応に関する諸課題の改善に向けて取り組むことの意義を理解し、健全な生活を送るための知識や行動の仕方を身に付けている。	日常生活への自己の適応に関する諸課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合ったよりよい解決方法を意思決定して実践している。	自己の生活をよりよくするために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自主的に課題解決に取り組み、他者と信頼し合ってよりよい人間関係を形成しようとしている。

5 事前の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】
○SNS について知る。 ○SNS との関わり方についてふり返るアンケートを記入する。	○SNS とはどのようなものなのかを説明し、自分たちの身近にあり普段使用しているものだということを知る。 ○本時の課題を一人一人が考えられるようにする。	◎SNS についての知識を得て、学習の見通しを持つようとしている。 【態】(アンケート)

6 本時について

(1) ねらい

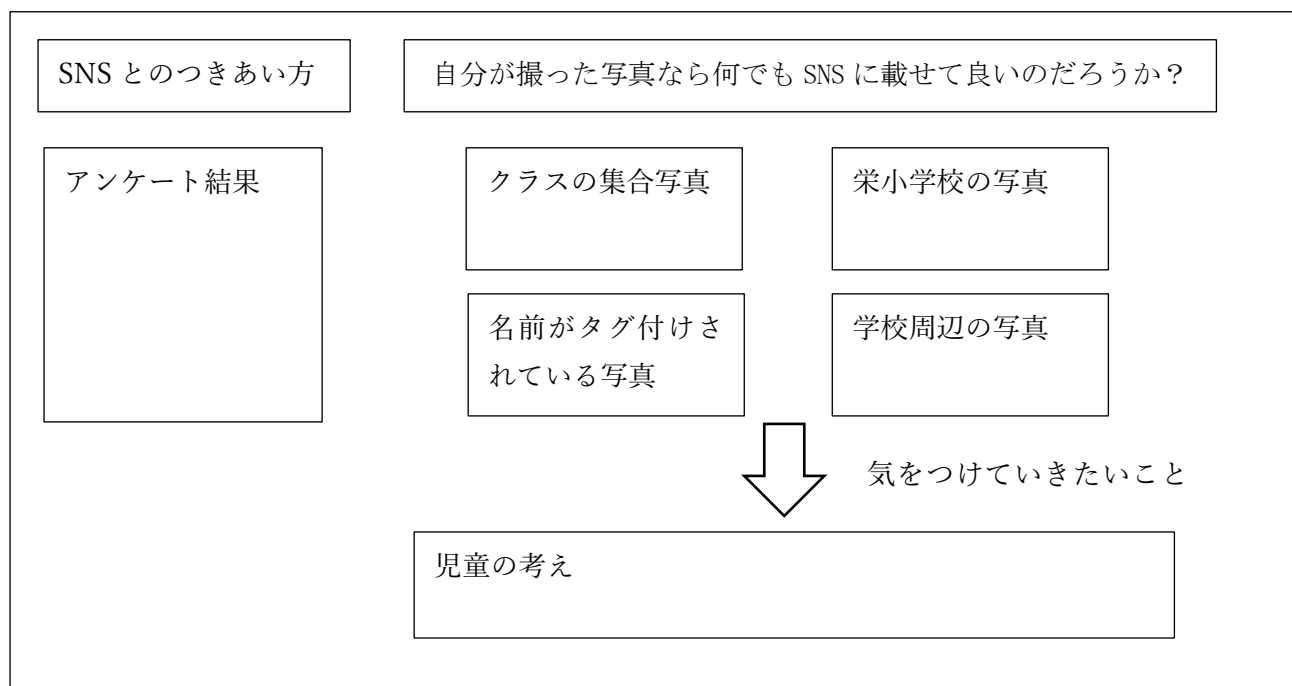
写真を使って情報発信するときに自分で気を付けたり、自分で判断したりすることができる。

(2) 展開

段階	児童の活動	指導上の留意点	教材・資料	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】 ☆研究主題との関わり	時
つかむ	1 本時の課題を知る。 ○アンケート結果を知る。 ○自分たちが映っている写真を見て、アップロードして良いものと、してはいけないものがあるのではないかということに気付く。	○SNS が自分たちの身近にあることを知る。 ○クラスの児童が写っている写真を使用し、自分事としてとらえられるようにする。	○アンケート結果 ○写真	☆自分自身が写っている写真を提示することで主体的に取り組めるようにする。	2
自分が撮った写真なら何でも SNS に載せて良いのだろうか。					
かんがえる	2 SNS に載せるときに配慮すべきことを身の回りの事例から知る。 ○3枚の写真を見て配慮すべきことは何か考える。	○風景の写真・部屋での写真・旅先の写真を用意し、様々な場面から考えられるようにする。	○写真	☆対話しながら見つけることで自分では気付くことが出来なかったことに気付くことができるようにする。	15

	<p>○動画を視聴してなぜそうなってしまったのかを考える。</p> <p>○グラフを見て情報を発信するときは気を付けなくてはならないことに気付く。</p>	<p>○位置情報が ON にされた写真で自分の位置が特定されてしまう動画を視聴させる。</p> <p>○警視庁の「SNS による犯罪被害」のグラフを見て、子供の被害が広がっていることに気付かせる。</p>	<p>○動画</p> <p>○グラフ</p>		
あ ら わ す	<p>3 自分たちの写った写真について考える。</p> <p>4 友達と交流する。</p>	<p>○「自分が被害者にならないように」という視点で考えさせるようにする。</p> <p>○友達の意見を聞いて、さらに考えを深められるようにする。</p>	<p>○ロイロノート</p> <p>○ロイロノート</p>	<p>◎SNS で情報を発信するときに被害者にならないために、自分には何ができるかを考え、見つけている。</p> <p>【思・判・表】 (ICT機器、発言)</p> <p>☆ロイロノートを使って交流することで友達の意見を取り入れやすくする。</p>	15
ふ り か え る	<p>5 写真を使って情報を発信するときに、自分が気を付けていくことを考える。</p> <p>6 事後の指導に向けての説明を聞く。</p>	<p>○具体的に書くように声かけをする。</p> <p>○実物を見せて児童が理解できるようにする。</p>	<p>○ロイロノート</p> <p>○写真</p>		<p>8</p> <p>5</p>

(3) 板書



7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 (観点) 【評価方法】
<ul style="list-style-type: none"> ○自分のもっている写真で、位置情報を確認できるか確かめる。 ○共有した写真について、危険なことがないか確かめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○位置情報が ON になっていたら OFF にしたか声をかける。 ○自分の決めたためあてに当てはまっているかを考えさせる。 	<p>◎自分のこととして課題を捉え学校の中だけでなく家でも気を付けて生活することができる。</p> <p>(思考・判断・表現) 【観察】</p>

8 資料

神奈川県警察・神奈川県教育委員会・LINE みらい財団「SNS の上手な使い方を考えよう」
 ネット社会の歩き方「写真の中に地図がある?!」